

INFORMATION PAPER

CONTENTUM

2011 11.7

contentum—コンテンツウム



塾生の第一志望大学合格に向けて

学校法人河合塾
現役生進学事業本部
高卒生進学事業本部
教育研究開発本部
管掌役員 富岡和隆

今春の入塾募集では、大学受験科は昨年的人数を大きく上回り、募集目標を達成することができました。東日本大震災で甚大な被害が出た東北地区、また計画停電等の影響もあり混亂が続いた首都圏の各校舎においても、先生方と校舎スタッフ一人ひとりの開講に向けた懸命の努力により、無事スタートを切ることができました。(4面に千葉雅保 文理学院理事長・河合塾仙台校校長による「3・11大震災を体験して」が掲載されています)。

一方、高校グリーンコースについては、「高2は前年の人数を上回ったものの、高1と高3は昨年を下回り、残念ながら開講時の目標は達成できませんでした。東北地区、首都圏では震災の影響で春期講習や募集イベントの中止が多数発生したこと、さらに東北においては高校の新学期開講が遅れ、行事日程が不明確であることや生徒の通学手段が確保できなかったことなどもあり、開講当初は募集面ではかなり苦戦しました。ただし5月以降は、全国的に途中入塾者が昨年を上回るペースで増えており、また学期途中での退塾者は昨年より減少しているため、9月末の時点での在籍者数(全国計)は、全学年トータルではほぼ前年並みで回復しています。

こうして入塾してきた生徒のプロフィールを見ますと、今年の大きな特徴は、

ともに理系生が大幅に増加していることです。大学受験科では、東大・京大・医進といった最難関のコースから、これら以外のコースに続く地区拠点大学や特定大以下のコースに至るまで、国私を問わず理系コースの塾生数が昨年よりも10%以上増えました。高3についても、全体としての募集は苦戦しましたが、大学別の理系数学の講座や理科の講座の受講者数は昨年から大きく伸びており、理系志向の急速な高まりを感じられます。

では、このような塾生のプロフィールや志望動向の変化の背景にどのような動きがあるのでしょうか。2011年度の大学入試状況・受験環境をあらためて確認したうえで、最新の模試結果等のデータから予想される2012年度入試の動向について考えたいと思います。

○今春の大学入試の状況

今春の大学入試では、大学志願者数は前年から約5千人増えて68万5千人程度であったと見込まれます。現役生の大学志願者は今春も上昇したため、現役生の志願者数は前年より増加し、既卒(浪人)生も昨春入試が厳しかった影響から、前年よりも増加したと考えられます。

今年はセンター試験の平均点がアップ

したことから、受験生は国公立を中心

としたことから、受験生は国公立を中心

幌

仙台

○地区No.1のために——'08年度の札幌校移転開校から大学受験科は、常に高い評価を受け、毎年90%のコースが締め切りとなっている。本年度は四谷学院の札幌校もあり、さらに細やかな募集戦略・施策を練つてのものであった。こうして'08年からは、地区No.1の塾生を集め始めとする難関大学の合格実績の向上、中でも東大・京大・医学部をはじめとする難関大学の合格への取り組み、教務部は校舎を補佐するゼミの運営や市場への広報展開を行い、當業部は高校における河合塾への信頼を高める日常活動を実践している。校舎・教務・當業が集まり、一丸となつての新年度募集戦略を構築している。まさに、今この時期が取り組みである。

○新たな戦略模索へ——本年8月から、新たな取り組みが始まった。札幌校における高校グリーンコース募集のより強化を行つたための取り組みが、各部門でなされている。校舎では「合格実績」の向上、中でも東大・京大・医学部をはじめとする難関大学の合格への取り組み、教務部は校舎を補佐するゼミの運営や市場への広報展開を行い、當業部は高校における河合塾への信頼を高める日常活動を実践している。校舎・教務・當業が集まり、一丸となつての新年度募集戦略を構築している。まさに、今この時期が取り組みである。

○新たな戦略模索へ——本年8月から、新たな取り組みが始まった。札幌校における高校グリーンコース募集のより強化を行つたための取り組みが、各部門でなされている。校舎・教務・當業が集まり、一丸となつての新年度募集戦略を構築している。まさに、今この時期が取り組みである。

な検討、意見交換を考えている。講師と職員が同一の立場で課題解決に向う場はこれまであまり無かつたので、今後は一層、このような場を設けていきたいと考えている。その際は是非ご協力を願いしたい。

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちを支援しよう!
~今まで捨てていたものでできる小さなボランティア~

現在世界ではワクチンが無いために一日に6,000人の子どもたちが予防可能な感染症で命を落としています。このような子どもたちが数多くいる途上国で、彼らが病気に負けず、夢と希望を持ち、笑顔で毎日を過ごせることを願って、河合塾グループでは社会貢献活動の一環として「ペットボトルのキャップを集め、ワクチンに換える運動」を行っております。

またペットボトルのキャップを分別収集することによって、環境保護と再資源化の促進ができます。現在ペットボトルは全国で年間564,000トン生産されており、国民一人当たり年間130本(約4kg)使っています。これらを一般的なゴミに混ぜてしまうと、焼却処分されてCO2の発生源になったり、埋め立て処分されて土壌を汚染し環境破壊を招いたりします。

私たち、ペットボトルのキャップを集めることで、再資源化の促進とCO2の発生を抑制して、キャップの売却益で一人でも多くの子どもたちにワクチンを届けられるように、今後も継続して活動を進めていきます。

これまでみなさまのご協力のもと、以下の収集実績をあげることができ、大変感謝しております。引き続き活動へのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

【これまでの収集実績】

河合塾グループでは2009年4月にこの活動を立ち上げて以来、2011年3月末までに約1,305,709個のペットボトルキャップを収集し、約1,632人にボリオワクチンを届けることができました。またCO2削減効果も約10トンにのぼっています。

西日本

スモ

教育支援活動

○東日本大震災合同授業実施 名古屋

「スマモ」——去る3月11日に発生した「東日本大震災」をテーマとした合同授業を6月11日と7月2日の2回に渡り実施した。第1回目は「福島原発から日常生活まで」、第2回目は「原発報道とメディア」とテーマを分け、4名の講師と全スタッフ、生徒も各回25名に、一部保護者も参加し各々約4時間かけて行なわれた。

授業内容としては各講師が夫々異なる視点から解説講義をし、第1回目は特別ゲストとして河合塾OBの被災者を招き震災当時の状況や震災後に感じていること等を語つてもらい、第2回目は受講

○教員研修プログラム実施 ——8月27日広島校、28日福岡校で教員研修プログラム「英語総合③」を実施した。広島校55名、福岡校145名の申し込みがあり、福岡校では1教室増設で対応した。受講者は校舎所在県だけでなく當業エリア全域

から集まつており、高校當業の現場においても受講者の感想を端緒にするなど、日々の當業活動にも効果的に活用させてもらっている。受講者の高い評価は、入塾・模試その他商品の拡販にもつながるもので、講師の先生方には改めて感謝申しあげるとともに、一層の活用をめざしている。

○広島募集監査「合格実績に期待」——四谷学院の進出により苦戦が予想された大受の募集。序盤はまったく動きがなく緊張を強いられる毎日だったが、震災の影響で地元に留まる生徒も多く、前年を上回る人數を集めることができた。上位層も堅調で、第一回記述模試や東大・

京大即応オーブンでも、好評価の生徒が多く、合格実績に期待が持てる。

また、高校グリーンコース・中学グリ

ーんコースでも、広島学院や広大附属など、市内トップ校からの支持を受け、入塾者数を増やしている。現役生においても実績を出し、競合他社に水をあけたい。

○福岡新塾生工事着工——12年4月、通塾時間徒步30秒の新しい男子寮・女子寮2棟が福岡校横に誕生する。男子寮は「みずほ寮」・女子寮は「さくら寮」。九州地区初のひらがなを使用した寮名には、今春開通した九州新幹線にあやかり、「受験生と保護者にとって快適な学習環境と安心のサポートを備えた河合塾福岡キャンパス」を12年度募集スローガンとして取り組みたい。

感謝——カンボジア教育支援活動への協力——カンボジア教育支援活動は、「①教育物資の支援」、「②生徒交流活動」、「③募金収集活動」の3つを柱に据えて活動している。その活動をご報告するとともに、活動へのご理解に感謝申し上げ、引き続きご協力のお願いをする。

①については全国各校舎および外部団体(小中学校など)の協力を得て集められた文具等を2月に現地送付し、支援先の「カンボジア・日本友好学園」をはじめ、近隣の小・中学校の生徒に届けた。

東京

中部

○「皆様に心より感謝いたします。」——11年3月11日、今まで体感したことのないほどの大きな地震。東日本大震災が起つた。すぐにライフラインがストップ情報を遮断されたため何がなんだかわから不再まま、真っ暗な心細い夜を迎えた。時間が経つとともに、被害の甚大さに体の震えが止まらなかつた。職員が生徒の安否確認にばたばたする中、河合塾の先生方や他地区の皆様から激励のお言葉救援物資が続々届き、人の優しさに涙がこぼれた。あれから半年、仙台校全体で「特別な一年」を合格につなげるべく頑張つている。

○「河合塾でよかつた」を実感いただくために——講師・保護者・チューターの連携強化——今年度も引き続き、「一人ひとりの指導にこだわる」塾生指導を徹底していく。模試の結果や入試動向の提供はもちろんのこと、生徒の状況を事前につかんで先生方と意見交換ができるよう、チユーター・スタッフの積極的な行動を進めている。また、保護者へもさることながら設備も充実しており、約200席の専用自習室、2つのラウンジなど快適な学習環境を提供している。

校舎スローガンは「また会いたくなる」校舎になる。スタッフをしっかりと育て、交通アクセスや設備以上に「スタッフの魅力」を校舎の売りにしていきたい。

○「河合塾でよかつた」を実感いただくために——講師・保護者・チューターの連携強化——今年度も引き続き、「一人ひとりの指導にこだわる」塾生指導を徹底していく。模試の結果や入試動向の提供はもちろんのこと、生徒の状況を事前につかんで先生方と意見交換ができるよう、チユーター・スタッフの積極的な行動を進めている。また、保護者へもさることながら設備も充実しており、約200席の専用自習室、2つのラウンジなど快適な学習環境を提供している。

校舎スローガンは「また会いたくなる」校舎になる。スタッフをしっかりと育て、交通アクセスや設備以上に「スタッフの魅力」を校舎の売りにしていきたい。

○「タスク・フォース」の推進——「エリアNo.1予備校」を目指し、再度問題や課題の認識をし、課題解決に向けての方向性や施策などを提言する教職一体の検討の場として「タスク・フォース」を立ち上げた。テーマは「現役生プラン再構築」「TOP(京大)ブランドの再構築」「地元大学(阪大・神大)に強い元大学に強い河合塾」を掲げ、募集活動においては、レギュラー授業に加え、面接を中心に現役生170名のベ270講座を募集できました。

名古屋校においても、「12年冬での開校に向け、新校舎建て替工事が進行中である。

○「11年度募集結果報告」——11年度は、これまでの「東大・京大・医学部に強い河合塾」に併せて、「阪大・神大など地元大学に強い河合塾」を掲げ、募集活動においては、レギュラー授業に加え、面接を中心に現役生170名のベ270講座を募集できました。

名古屋校においても、「12年冬での開校に向け、新校舎建て替工事が進行中である。

○「タスク・フォース」の推進——「エリアNo.1予備校」を目指し、再度問題や課題の認識をし、課題解決に向けての方向性や施策などを提言する教職一体の検討の場として「タスク・フォース」を立ち上げた。テーマは「現役生プラン再構築」「TOP(京大)ブランドの再構築」「地元大学(阪大・神大)に強い元大学に強い河合塾」の3テーマで現在議論を進めおり、今後も多くの先生方と一緒に考えていく予定です。

名古屋校においても、「12年冬での開校に向け、新校舗建て替工事が進行中である。

○「タスク・フォース」の推進——「エリアNo.1予備校」を目指し、再度問題や課題の認識をし、課題解決に向けての方向性や施策などを提言する教職一体の検討の場として「タスク・フォース」を立ち上げた。テーマは「現役生プラン再構築」「TOP(京大)ブランドの再構築」「地元大学(阪大・神大)に強い元大学に強い河合塾」の3テーマで現在議論を進めおり、今後も多くの先生方と一緒に考えていく予定です。

名古屋校においても、「12年冬での開校に向け、新校舗建て替工事が進行中である。

○「タスク・フォース」の推進——「エリアNo.1予備校」を目指し、再度問題や課題の認識をし、課題解決に向けての方向性や施策などを提言する教職一体の検討の場として「タスク・フォース」を立ち上げた。テーマは「現役生プラン再構築」「TOP(京大)ブランドの再構築」「地元大学(阪大・神大)に強い元大学に強い河合塾」の3テーマで現在議論を進めおり、今後も多くの先生方と一緒に考えていく予定です。

名古屋校においても、「12年冬での開校に向け、新校舗建て替工事が進行中である。

○「タスク・フォース」の推進——「エリアNo.1予備校」を目指し、再度問題や課題の認識をし、課題解決に向けての方向性や施策などを提言する教職一体の検討の場として「タスク・フォース」を立ち上げた。テーマは「現役生プラン再構築」「TOP(京大)ブランドの再構築」「地元大学(阪大・神大)に強い元大学に強い河合塾」の3テーマで現在議論を進めおり、今後も多くの先生方と一緒に考えていく予定です。

名古屋校においても、「12年冬での開校に向け、新校舗建て替工事が進行中である。

○「タスク・フォース」の推進——「エリアNo.1予備校」を目指し、再度問題や課題の認識をし、課題解決に向けての方向性や施策などを提言する教職一体の検討の場として「タスク・フォース」を立ち上げた。テーマは「現役生プラン再構築」「TOP(京大)ブランドの再構築」「地元大学(阪大・神大)に強い元大学に強い河合塾」の3テーマで現在議論を進めおり、今後も多くの先生方と一緒に考えていく予定です。

た。その結果、のべ150名以上の子どもたちに参加してもらい、施設側からもぜひ来年度も続けて欲しいという声をいただいた。

「11年度は、引き続き子どもたちの教育支援の一環として大学生ボランティアの組織「ガクボラ」を運営しているNPO法人キッズドア、児童養護施設の子どもたちへの教育支援をしているNPO法人「LivingDreams」と共同し、次の2つの活動を行っている。

①学校以外での学習環境に制限のある児童養護施設の子どもたちに、学習への興味や意欲を持つようなきっかけとなる場を提供する。

②首都圏の校舎にて、申込があつた児童養護施設の生徒に対する「大学受験情報の提供・進路相談・勉強の悩み相談」を河合塾職員が無料で行う。

①の活動について今年度は、昨年度参加した施設側と子どもたちの反応から、社会体験をテーマとして年2回の予定で行うこととし、その第1回を10/22(土)に上野の国立科学博物館で行い、第2回は、11/27(日)に築地の社会教育会館で料理教室を実施する予定となっている。

②の活動については、4月に担当する職員の募集を行い、池袋校・立川校・横浜校から計5名の職員の方にご協力いたただけることになり、現在、11月下旬からのスタートに向けて準備を進めている。

今年度は学習イベントについては縮小しながらも、チューイー制度を児童養護施設の子どもたちに無料で実施することをスタートした。今後も河合塾グループのリソースを最大限に活かした活動によるよう進めていきたい。

3・11大震災を体験して

学校法人 文理学院 理事長
専修学校 河合塾仙台校 校長

千葉 雅保

このたびの大震災では、全国の講師の皆さま方ならびに職員・スタッフの皆さま方から早々のこころ温まる励ました

くさん多額の義援金をお寄せ頂き深く感謝申し上げます。お蔵さまで震災直後、

精神的にも肉体的にも極限状態にあった仙台校の職員・スタッフにとって、皆さまからのご支援は何にもまして心の支えとなり歴史的大困難をのり越えることができました。

大地震、大津波の襲来から早や7ヶ月を過ぎ、仙台の街並みは既に震災前と変わらないほど回復しました。思えば震災直後は校舎の損壊をはじめ講師・職員・

スタッフ全員、もちろん私も含めてお互に住まいも大なり小なり被災し、部屋中が散乱状態で手の付けようのないよう

でした。

このたびの大震災では、全国の講師の

皆さま方ならびに職員・スタッフの皆さま方から早々のこころ温まる励ました

くさん多額の義援金をお寄せ頂き深く感謝申し上げます。お蔵さまで震災直後、

精神的にも肉体的にも極限状態にあった仙台校の職員・スタッフにとって、皆さまからのご支援は何にもまして心の支えとなり歴史的大困難をのり越えることができました。

大地震、大津波の襲来から早や7ヶ月を過ぎ、仙台の街並みは既に震災前と変わらないほど回復しました。思えば震災直後は校舎の損壊をはじめ講師・職員・

スタッフ全員、もちろん私も含めてお互に住まいも大なり小なり被災し、部屋中が散乱状態で手の付けようのないよう

でした。

このたびの大震災では、全国の講師の

皆さま方ならびに職員・スタッフの皆さま方から早々のこころ温まる励ました

でした。

このたびの大震災では、全国の講師の

困っている人がいるので、その人たちを救済しなければという使命感に苛まれ、結果として夫人は逃げ遅れて犠牲になってしまった場面がありました。私は涙が止まりませんでした。多分私の妻がガンで末期状態の闘病生活していたころ、同じ病院に以前からお世話をしていた知的障害のお子様のお母さんが入院されたのを機に、お母さんの病床へ時間ががあれば足を運び、お子様の将来のことやご自身の病のことなど悩みを聞いてあげていた妻の姿と重なってしまったのだと思いました。

なお9月時点での東北の景気については震災復旧工事もこれからが本格化し、復興特需の継続もあるので、被災地以外では震災以前を上回る水準まで回復しているほか、被災地の一部でも経済活動再開の動きがみられ、全体として回復基調にあることが報道されています。これから数年間は私ども仙台校の塾生募集に各國からの支援の継続が望まれています。

まだまだ被災地の復興には大変な時間と巨額な財政資金を必要としています。

私の関与する奉仕団体での活動状況をみると義援金などの支援もまだまだ被災地を充足させるまで至っていないのが現状でここ数年間は日本全国からそして世界各國からの支援の継続が望まれています。

自然が生きているという叫び、そして「人間として生きるとは」などあらためて自然と人間について深く考えさせられることがいろいろありました。

河合出版

『学参書籍／新刊の』案内

『2012大学入試センター試験過去問レビュー』

(全12点)

『2012マーク式総合問題集』

通年版問題集

(全4卷セット)

得点奪取 現代文 三訂版

生物3 DNA

『ともかく覚える重要語

セントラル倫理・政治・経済

『問題別解説』

特 別 号

INFORMATION PAPER CONTENTUM

「ハラスメント防止に関するアンケート」

(講師対象)についての報告

編集 総合センター運営部

10年10月から11年4月にかけて、講師対象のアンケートを実施させていたしました。講師の方々には、貴重な時間を有り難うございました。また、このアンケートの分析結果を報告する場としてCONTENTUM特別号の発行を快諾して下さいました関係各部に感謝いたします。

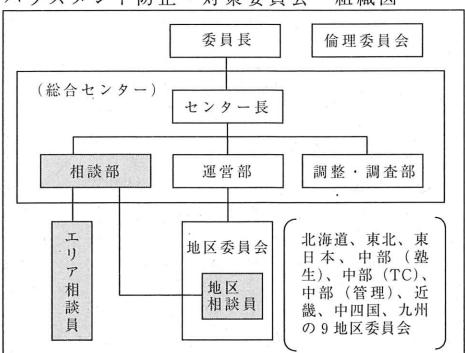
○今回の講師対象アンケートについて

今回の講師対象のアンケートは、'02年・'07年に統く3回目のものとなりました。従来は、全国一斉に実施したアンケートの集計と分析を運営部が担当し、「活動報告書」に掲載してきましたが、今回は実施の時期や配付方法などを各地区委員会に委ね、地区ごとに分析を行いました。それは、アンケートの実施とその分析を通じて地区委員会が自らの活動を検証し、今後の防止・対策活動の指針とするためのものでした。今回はこの「CONTENTUM」紙上をかりて、運営部担当の全体分析とともに、講師の方々の特色を見据えた上で独自の分析を行つておりますので、是非ご一読下さい。

○防止・対策委員会の役割と立ち位置

委員会の役割は、①ハラスメントが起きない就学・就労環境をつくりだすために啓発活動(勿論、自らをも含め)を担う、②ハラスメントと思われる事態が生じた場合には、誠実・公平・迅速な対応を行う、という二つです。①の委員会活動の根幹をなすハラスメント防止の役割を担う機関が、地区委員会と運営部です。

ハラスメント防止・対策委員会組織図



この項目は、委員会の防止・対策活動の前提となる委員会の存在そのもの及びその活動がどの程度河合塾グループの構成員に認知されているかを確認するためのものです。今回のアンケートの対象となつた講師・個別指導員・フェローが、防止・対策委員会の存在や活動をどのように認識しているかをはかるところです。現時点での委員会活動の捉え直しや今後の活動方針を考える際に活用させていただきための質問でした。

セクシュアル・ハラスメント防止・対策委員会の発足以来11年が経過するなかで、委員会の存在そのものについては、

今回のアンケートで最も気になつたのは、委員会組織や相談体制に対する不信感が見受けられたことです。その要因はいろいろ考えますが、委員会の役割や委員会と河合塾グループとの関係についての理解が浸透していないことが大きな要因だと思われます。そこで、この場をかりて、その点について確認しておきたいと思います。

○委員会組織のつくりかた

委員会のメンバーは270名程度で、ほぼ3～5年の任期で交代します。それは、出来的だけ多くの河合塾グループの構成員がハラスメント防止・対策に関わるということに力点を置いた体制をとっているからです。ハラスメント防止の根幹は、歴史的に温存・再生産されてきたハラスメント的土壤を構成員の一人一人が直視・検証し、自らが抱えるハラスメント的体質や差別意識を変革していくことにあります。防止のための啓発活動とは、委員会メンバーが他の構成員を一方的に啓発するのではなく、自らを啓発し

Q6・7 ハラスメント防止・対策活動の認知度

この項目は、委員会の防止・対策活動の前提となる委員会の存在そのもの及びその活動がどの程度河合塾グループの構成員に認知されているかを確認するためのものです。今回のアンケートの対象となつた講師・個別指導員・フェローが、防止・対策委員会の存在や活動をどのように認識しているかをはかるところです。現時点での委員会活動の捉え直しや今後の活動方針を考える際に活用させていただきための質問でした。

この項目は、ハラスメント事案に対する公平さを保障するために、委員会は、設立されています。それは、事案内容によっては、河合塾グループそのものや経営陣が被申し立て人になる場合も想定されています。委員会は、決して内部の苦情を内輪で処理するための機関ではないことを確認していただきたいと思います。

この構成員が委員会に関わるという体制がとられているのです。そして、委員会が積極的・主体的にハラスメント防止に関わる状況を創出してこそ、就学・就労の場でのハラスメント的土壤を変えていくことが可能なのだと思います。

2010年ハラスメント防止に関するアンケート全体分析（抜粋項目の経年比較）

(2010年10月～2011年4月実施 講師・フェロー・個別指導員対象)

◆Q6・7 ハラスメント防止・対策活動の認知度

項目	アンケート実施内容	セクシュアル・ハラスメント防止対策		ハラスメント防止対策	
		年度	2002年	2007年	2010年
	回収率	35.0%	43.3%	56.1%	
Q6 A	河合塾が(セクシュアル)ハラスメントの防止・対策に取り組んでいることを知っている	96.4%	96.2%	94.0%	
B	河合塾に(セクシュアル)ハラスメント防止・対策に関するガイドラインがあることを知っている	92.7%	93.8%	91.1%	
C	(セクシュアル)ハラスメント防止についてのポスターを見た	62.2%	70.5%	67.9%	
D	(セクシュアル)ハラスメント防止についてのリーフレットをもって読んだ	-	72.5%	73.0%	
F	これまでに「河合塾(セクシュアル)ハラスメント防止・対策」についての研修(講演・ビデオ視聴等を含む)を受けた	26.0%	37.8%	45.7%	
Q7 A	河合塾で相談できることを知っている	85.7%	85.4%	86.5%	
C	相談員がいることを知っている	-	75.3%	72.7%	
D	誰が自分の所属する地区の相談員になっているかを「全員の名前を」「一部の名前を」知っている	-	46.0%	41.8%	
E	河合塾に関係がある人であれば誰でも相談できることを知っている	73.5%	67.8%	69.5%	
F	相手が塾外の人であっても相談できることを知っている	-	22.6%	28.3%	
G	過去にさかのぼり、いつ起こったことでも相談できることを知っている	46.8%	52.8%	42.9%	

◆Q8 ハラスメントに対する意識度

年度	Q8 K 断られても、しつこくデートに誘う。	問題である		
		2002年	2007年	2010年
	問題である	71.3%	80.8%	92.8%
	場合によっては問題	26.0%	18.1%	6.2%
	問題ではない	1.9%	1.1%	0.6%
L	宴席で、酒の勢いで異性に抱きつく。	83.6%	81.0%	88.7%
	問題である	15.1%	18.6%	10.2%
	問題ではない	0.4%	0.5%	0.6%
G	授業中に生徒・学生の笑いをとろうとして、下ネタを繰り返す。	52.8%	70.3%	79.0%
	問題である	49.9%	65.0%	88.9%
	場合によっては問題	43.2%	28.6%	19.6%
	問題ではない	3.1%	1.1%	0.9%
F	生徒対応の中で男女の性別役割について強調する発言をしていた→「女はすぐやめるから医者や弁護士をめざすな」、「男子厨房に立ち入るべからず」などと言ふ。	5.3%	1.8%	0.7%
	問題である	43.6%	33.3%	9.8%
	場合によっては問題	37.9%	38.9%	68.6%
	問題ではない	53.3%	53.5%	28.9%
M	職員や同僚の婚姻関係や子供の有無について興味本位に尋ねたり本人の了解なしに他人に話したりする。	8.3%	7.6%	1.7%
	問題である	27.1%	53.4%	66.2%
E	生徒・学生との会話の中で、特定の生徒・学生の容姿、体型、年齢、服装、化粧などについて話題にする。	59.5%	43.9%	31.8%
	問題ではない	12.8%	2.7%	1.3%

◆Q9 現場でのハラスメントの実態について

年度	Q9 A あなた自身が河合塾において(セクシュアル)ハラスメントを受けていたことがある	2002年			2007年			2010年		
		2002年	2007年	2010年	2002年	2007年	2010年	2002年	2007年	2010年
		8.3%	6.3%	10.9%						
C	あなたは河合塾で(セクシュアル)ハラスメントを直接見たり、被害を受けていると思われる人から話を聞いたことがある	28.1%	20.5%	23.5%						
E	あなた自身が河合塾において、(セクシュアル)ハラスメントをしているのではないかと感じたことがある	6.8%	5.8%	5.4%						
F	あなたが(セクシュアル)ハラスメントを「受けた」「見た」「聞いた」時に、河合塾に相談してみよう	42.0%	38.9%	43.7%	14.6%	15.8%	14.7%	41.9%	45.3%	38.6%

はセクシユアル・ハラスメントと認定されています。職員・同僚の個人情報を生徒・学生へ話し、その生徒がネットに何気なく書き込んだため問題となつことがあります。話をした「他人」のすぐ後ろにはネットの世界つまり世間全さ。個人情報の漏洩、誹謗中傷は事実であろうがなかろうが、名誉毀損として訴えられる可能性があります。

経年比較すると、「問題にならない」と答えた方は明らかに減っています。

はセクシユアル・ハラスメントと認定されています。職員・同僚の個人情報を生徒・学生へ話し、その生徒がネットに何気なく書き込んだため問題となつことがあります。話をした「他人」のすぐ後ろにはネットの世界つまり世間全さ。個人情報の漏洩、誹謗中傷は事実であろうがなかろうが、名誉毀損として訴えられる可能性があります。

資料2

2010年度 ハラスメント防止に関するアンケート(講師・フェロー・個別指導員対象) 地区別集計

(2010年10月～2011年4月実施)

質問番号	質問項目	地区	全体	北海道	東北	東日本	中部 塾生	中部 TC	近畿	中四国	九州
			回収率	56.1%	51.4%	66.3%	46.8%	57.9%	72.9%	40.6%	84.1%

◆Q6・7 ハラスメント防止・対策活動の認知度

Q6 A	河合塾がハラスメントの防止・対策に取り組んでいることを知っている	94.0%	100.0%	77.2%	93.4%	98.6%	96.5%	95.2%	98.9%	90.8%	
	B 「河合塾ハラスメント防止・対策に関するガイドライン」があることを知っている	91.1%	100.0%	72.8%	88.6%	96.7%	95.4%	93.8%	96.7%	88.7%	
C	ハラスメント防止についてのポスターを見た	67.9%	73.7%	35.1%	69.9%	71.7%	68.6%	74.7%	76.7%	64.5%	
D	ハラスメント防止についてのリーフレットをもらって読んだ	73.1%	89.5%	56.1%	65.1%	77.2%	82.7%	80.1%	85.6%	73.8%	
E	河合塾ホームページに案内「ハラスメント防止に向けて」があることを知っている	38.2%	68.4%	25.4%	33.6%	44.6%	40.3%	45.2%	43.3%	35.5%	
F	これまでに「河合塾ハラスメント防止・対策」についての研修(講演・ビデオ視聴等を含む)を受けた	45.7%	15.8%	20.2%	23.8%	64.5%	43.5%	65.8%	94.4%	73.8%	
Q7 A	河合塾に相談できることを知っている	86.5%	100.0%	65.8%	83.5%	94.2%	89.4%	90.4%	96.7%	81.6%	
B	相談できることをどのようにして知りましたか?	リーフレットで	70.1%	73.7%	66.7%	68.2%	76.5%	66.8%	72.7%	64.4%	73.0%
	研修で	43.5%	10.5%	25.3%	28.4%	51.2%	30.0%	63.6%	89.7%	76.5%	
	職員・スタッフから	44.2%	31.6%	57.3%	38.2%	41.9%	60.5%	33.3%	46.0%	42.6%	
C	各地区や全国に相談員がいることを知っている	72.7%	84.2%	42.1%	67.6%	87.7%	73.1%	83.6%	84.4%	66.7%	
D	あなた自身が所属する地区の相談員について「ほぼ全員の名前を」「一部の名前を」知っている	41.8%	57.9%	22.8%	28.1%	61.6%	45.6%	49.4%	51.1%	50.4%	
E	河合塾に關係があれば誰でも相談できることを知っている	69.5%	84.2%	51.8%	62.1%	79.7%	73.1%	76.7%	80.0%	69.5%	
F	相手が塾外の人であっても相談できることを知っている	28.3%	26.3%	21.1%	20.1%	30.4%	31.4%	35.6%	46.7%	37.6%	
G	過去にさかのぼり、いつ起きたことでも相談できることを知っている	42.9%	47.4%	36.0%	34.0%	52.9%	40.3%	50.7%	60.0%	50.4%	

◆Q8 ハラスメントに対する意識度

Q8 A	「こんな問題もできないなんて学校で何を勉強してきたんだ」「こんなことも分からぬようでは、私の授業を受けてもしようがない」と発言する。	問題である	68.1%	73.7%	55.3%	64.1%	74.6%	72.8%	62.3%	71.1%	75.9%
	場合によっては問題	28.9%	26.3%	41.2%	31.7%	22.8%	25.8%	32.9%	26.7%	24.1%	
	問題にならない	2.4%	0.0%	2.6%	3.6%	2.2%	1.1%	3.4%	2.2%	0.0%	
B	「○○大学なんて、大学じゃない」、「△△(職業)なんて、めざしてもムダ」などと、生徒・学生の志望校や希望する進路について、一方的に否定・批判する発言をする。	問題である	88.5%	94.7%	79.8%	89.1%	87.7%	91.9%	84.9%	86.7%	91.5%
	場合によっては問題	10.1%	5.3%	18.4%	8.9%	11.2%	7.4%	11.6%	13.3%	8.5%	
	問題にならない	0.9%	0.0%	0.9%	1.2%	0.7%	0.4%	2.1%	0.0%	0.0%	
C	好き、嫌いといった個人的な感情で生徒・学生に対応する。	問題である	85.3%	94.7%	79.8%	85.4%	82.6%	89.0%	84.2%	83.3%	88.7%
	場合によっては問題	13.7%	5.3%	19.3%	13.2%	16.7%	10.6%	13.7%	15.6%	11.3%	
	問題にならない	0.4%	0.0%	0.0%	0.7%	0.4%	0.0%	0.7%	1.1%	0.0%	
D	誤りを注意するとき、その生徒・学生の学習態度や生活態度・性格についても説教する。	問題である	40.6%	42.1%	33.3%	34.7%	45.3%	52.7%	32.9%	43.3%	42.6%
	場合によっては問題	53.0%	57.9%	53.5%	57.8%	51.1%	42.0%	62.3%	50.0%	51.1%	
	問題にならない	5.8%	0.0%	12.3%	6.8%	3.3%	4.6%	3.4%	6.7%	6.4%	
E	生徒・学生との会話の中で、特定の生徒・学生の容姿、体型、年齢、服装、化粧などについて話題にする。	問題である	66.2%	68.4%	48.2%	67.3%	67.4%	67.1%	66.4%	70.0%	69.5%
	場合によっては問題	31.8%	31.6%	49.1%	30.1%	31.9%	31.1%	30.1%	27.8%	29.8%	
	問題にならない	1.3%	0.0%	1.8%	2.0%	0.4%	0.7%	2.1%	2.2%	0.7%	
F	生徒対応の中で男女の性別役割について強調する発言をしていて→「女はすぐやめるから医者や弁護士をめざすな」、「男子厨房に立ち入るべからず」などと言う。	問題である	88.9%	94.7%	80.7%	87.5%	90.6%	91.9%	87.7%	88.9%	92.2%
	場合によっては問題	9.8%	5.3%	16.7%	11.2%	9.4%	7.8%	6.8%	11.1%	6.4%	
	問題にならない	0.7%	0.0%	1.8%	0.5%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	1.4%	
G	授業中に生徒・学生の笑いをとろうとして、下ネタを繰り返す。	問題である	79.0%	100.0%	59.6%	75.8%	84.1%	86.6%	75.3%	77.8%	83.7%
	場合によっては問題	19.6%	0.0%	36.0%	22.4%	15.6%	13.1%	20.5%	22.2%	16.3%	
	問題にならない	0.9%	0.0%	3.5%	1.1%	0.4%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	
H	生徒・学生とメールのアドレスを交換する。	問題である	60.5%	52.6%	66.7%	72.6%	44.6%	34.3%	63.0%	77.8%	78.7%
	場合によっては問題	36.4%	47.4%	30.7%	25.1%	50.7%	61.5%	32.9%	22.2%	19.1%	
	問題にならない	2.5%	0.0%	1.8%	1.6%	4.3%	3.9%	2.7%	0.0%	2.1%	
I	生徒・学生と個人的に校舎の外で何度も会う。	問題である	80.0%	84.2%	78.9%	86.5%	71.4%	68.9%	80.1%	86.7%	88.7%
	場合によっては問題	18.3%	15.8%	20.2%	11.2%	25.7%	30.7%	17.1%	13.3%	10.6%	
	問題にならない	1.1%	0.0%	0.0%	1.4%	2.5%	0.0%	1.4%	0.0%	0.7%	
J	権限も無いのに、「お前の仕事を減らしてやる」などと発言する。	問題である	91.6%	100.0%	82.5%	91.8%	89.5%	95.8%	87.0%	93.3%	96.5%
	場合によっては問題	6.9%	0.0%	15.8%	6.6%	9.1%	3.5%	8.9%	5.6%	3.5%	
	問題にならない	0.9%	0.0%	0.9%	0.9%	1.1%	0.4%	2.7%	1.1%	0.0%	
K	断られても、しつこくデートに誘う。	問題である	92.8%	89.5%	88.6%	92.0%	92.8%	97.5%	87.0%	94.4%	95.0%
	場合によっては問題	6.2%	10.5%	10.5%	6.2%	7.2%	2.1%	9.6%	5.6%	5.0%	
	問題にならない	0.6%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	
L	宴席で、酒の勢いで異性に抱きつく。	問題である	88.7%	89.5%	78.1%	85.8%	89.9%	95.8%	86.3%	88.9%	94.3%
	場合によっては問題	10.2%	10.5%	19.3%	12.8%	9.8%	3.5%	11.0%	11.1%	5.7%	
	問題にならない	0.6%	0.0%	1.8%	0.7%	0.0%	0.4%	1.4%	0.0%	0.0%	
M	職員や同僚の婚姻関係や子供の有無について興味本位に尋ねたり本人の了解なしに他人に話したりする。	問題である	68.6%	73.7%	50.0%	68.5%	69.9%	73.1%	71.2%	63.3%	72.3%
	場合によっては問題	28.9%	26.3%	45.6%	28.3%	29.0%	25.4%	24.0%	35.6%	26.2%	
	問題にならない	1.7%	0.0%	2.6%	2.3%	0.7%	1.1%	3.4%	0.0%	0.7%	

Q 9.

2010年度 ハラスメント防止に関するアンケート(講師・フェロー・個別指導員対象) 地区別集計

◆Q9 現場でのハラスメントの実態について

		全体	北海道	東北	東日本	中部 塾生	中部 TC	近畿	中四国	九州
Q9 A	あなた自身が河合塾に関係する中でハラスメントを受けていると感じたことがある	10.9%	10.5%	6.1%	9.4%	12.7%	11.0%	13.0%	16.7%	11.3%
B 「受けていると感じた」相手の立場は?	役員・職員・スタッフ	35.4%	0.0%	42.9%	37.7%	34.3%	48.4%	36.8%	20.0%	18.8%
	講師	55.1%	100.0%	42.9%	56.6%	45.7%	41.9%	57.9%	73.3%	75.0%
	生徒・学生	6.2%	0.0%	0.0%	5.7%	8.6%	9.7%	5.3%	6.7%	0.0%
B 「受けていると感じた」その内容は?	言葉による	70.8%	100.0%	71.4%	66.0%	80.0%	61.3%	52.6%	86.7%	87.5%
	身体的接触	9.0%	0.0%	14.3%	7.5%	5.7%	16.1%	5.3%	20.0%	0.0%
	環境型	8.4%	0.0%	14.3%	7.5%	5.7%	3.2%	15.8%	6.7%	18.8%
B 「受けていると感じた」その場所は?	講師室	52.2%	50.0%	57.1%	52.8%	62.9%	48.4%	36.8%	60.0%	43.8%
	校舎内・部署内	34.3%	0.0%	28.6%	28.3%	31.4%	35.5%	73.7%	26.7%	25.0%
	その他	20.2%	50.0%	28.6%	17.0%	22.9%	22.6%	15.8%	13.3%	25.0%
C	あなたは河合塾に関係する中でハラスメントと思われる行為を見たり聞いたりしたことがある	23.5%	26.3%	14.9%	21.9%	29.3%	17.7%	36.3%	27.8%	21.3%
D 「見たり、聞いたりした」のは誰から?	役員・職員・スタッフ	21.4%	0.0%	41.2%	16.3%	19.8%	34.0%	11.3%	12.0%	43.3%
	講師	64.6%	100.0%	41.2%	67.5%	69.1%	50.0%	73.6%	72.0%	50.0%
	生徒・学生	7.3%	0.0%	11.8%	8.9%	4.9%	12.0%	3.8%	12.0%	0.0%
D 「見たり、聞いたりした」のは誰へ?	役員・職員・スタッフ	17.4%	40.0%	29.4%	12.2%	7.4%	24.0%	30.2%	16.0%	23.3%
	講師	26.8%	0.0%	29.4%	24.4%	28.4%	28.0%	18.9%	20.0%	53.3%
	生徒・学生	44.3%	20.0%	17.6%	51.2%	54.3%	44.0%	35.8%	60.0%	10.0%
D 「見たり、聞いたりした」その内容は?	言葉による	62.8%	40.0%	58.8%	65.0%	56.8%	68.0%	60.4%	64.0%	70.0%
	交際の強要	32.0%	40.0%	35.3%	29.3%	30.9%	34.0%	37.7%	52.0%	13.3%
	身体的接触	20.3%	60.0%	35.3%	12.2%	28.4%	20.0%	15.1%	36.0%	13.3%
D 「見たり、聞いたりした」その場所は?	教室	22.4%	0.0%	23.5%	26.8%	16.0%	44.0%	11.3%	20.0%	10.0%
	講師室	47.1%	40.0%	47.1%	46.3%	56.8%	36.0%	47.2%	44.0%	46.7%
	校舎内・部署内	29.2%	0.0%	23.5%	25.2%	29.6%	40.0%	35.8%	24.0%	26.7%
E	あなた自身が河合塾においてハラスメントをしたのではないかと感じたことがある	5.4%	5.3%	3.5%	3.4%	8.0%	6.0%	5.5%	8.9%	6.4%
F 「あなたがハラスメントを「受けた」「見た」「聞いた」時に、河合塾に相談してみようと思う	思う	43.7%	31.6%	43.0%	42.7%	40.2%	49.8%	39.7%	45.6%	47.5%
	思わない	14.7%	31.6%	15.8%	14.9%	14.5%	10.6%	18.5%	17.8%	13.5%
	わからない	38.6%	36.8%	39.5%	40.0%	40.6%	36.0%	39.0%	36.7%	34.0%
G 「相談してみようと思う」その方法は?	相談員との面談	67.9%	83.3%	71.4%	61.7%	68.5%	68.1%	69.0%	70.7%	82.1%
	電話	9.0%	16.7%	4.1%	9.6%	11.7%	10.6%	8.6%	2.4%	6.0%
	電子メール	18.0%	0.0%	18.4%	22.5%	14.4%	17.7%	17.2%	19.5%	9.0%
H 「相談してみようと思わない」理由は?	解決につながらない	22.9%	33.3%	27.8%	20.2%	27.5%	10.0%	29.6%	25.0%	26.3%
	相談することが面倒	19.2%	16.7%	27.8%	23.8%	17.5%	13.3%	14.8%	12.5%	15.8%
	必要性を感じない	25.0%	16.7%	22.2%	25.0%	32.5%	33.3%	7.4%	37.5%	15.8%
I 河合塾のハラスメント防止・対策活動に触れる中で、ご自身のハラスメントに対する意識が変化したと思われますか。	はい	47.1%	36.8%	36.8%	39.3%	54.0%	56.2%	47.3%	63.3%	46.1%
	いいえ	17.8%	42.1%	18.4%	21.4%	17.8%	12.7%	22.6%	8.9%	11.3%
	わからない	31.8%	21.1%	42.1%	36.3%	25.0%	27.2%	27.4%	25.6%	37.6%
J 講師を対象としたハラスメント研修は必要だと思われますか。	はい	56.3%	52.6%	44.7%	46.4%	61.6%	60.4%	61.0%	78.9%	68.1%
	いいえ	14.3%	26.3%	27.2%	18.9%	13.4%	8.8%	9.6%	5.6%	7.8%
	わからない	25.9%	21.1%	25.4%	32.0%	21.4%	26.9%	26.7%	11.1%	18.4%
K 「研修が必要でない」理由は?	良く知っている	45.7%	60.0%	48.4%	40.6%	54.1%	48.0%	35.7%	60.0%	54.5%
	多忙であるから	15.8%	0.0%	19.4%	18.9%	18.9%	8.0%	0.0%	20.0%	9.1%
	その他	19.2%	0.0%	6.5%	22.6%	16.2%	28.0%	28.6%	0.0%	18.2%

(注)

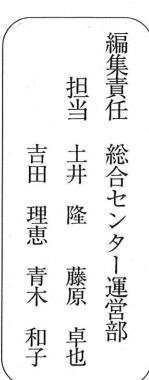
①Q7のBは3つまでの回答のため、合計は100%を超える。また、上位3つまで掲載。

②Q9のB、Dは前の質問で「ある」と回答した人の中での比率で、上位3つまで掲載。

③Q9のGはQ9のFで「思う」と回答した人の中での比率で、上位3つまで掲載。

④Q9のH、Kは前の質問で「思わない・いいえ」と回答した人の中での比率で、上位3つまで掲載。

⑤中部TCは、トライデントにKALS名古屋を含む。



<p>○ ハラスメントかな?と思つたら…</p> <p>これはおかしいな、嫌だなと思つたら、まず相手にそのことを伝えみてください。</p> <p>ごく普通のやりとりの中で、相手は自分の対応のまさに気付くことがあります。</p> <p>とても自分では解決できないと思つたら、各地区や相談部に設置している相談窓口で相談してみてください(相談員のリストはリーフレットと一緒に配付しています)。</p> <p>メールや電話でも相談できます。</p> <p>困つてゐる同僚や生徒・学生のために、第三者として相談・申し立てを行うことも可能です。但しこの意思を確認しておいてください。</p> <p>● ハラスメントの認定は?</p> <p>● 守秘義務の厳守</p> <p>・ 申し立てられた事案が、ハラスメントであるかどうかの認定は、倫理委員会で行います。相談対応や調整・調停、調査の段階ではハラスメントの認定は行つていません。</p> <p>・ 守秘義務は、委員会メンバーは勿論ですが、申立人・被申立人、そして相談を受けた友人にも及びます。ハラスメントの風評被害は深刻ですので、心してください。</p>
